

## 平成 25 年度第 1 回常務理事会議事録

日 時： 平成 25 年 4 月 12 日（金） 15 : 00～16 : 55

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

常務理事：岩下 光利、吉川 史隆、木村 正、峯岸 敬、八重樫 伸生、吉川 裕之

監 事：武谷 雄二、和氣 徳夫

第 65 回学術集会長：櫻木 範明

理事会内委員会委員長：竹下 俊行、平松 祐司、水上 尚典、水沼 英樹、吉村 泰典

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、岸 裕司、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、

佐藤 豊実、下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、阪埜 浩司、

増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15 : 00 理事長、副理事長、常務理事の総数 11 名のうち 9 名が出席し（嘉村敏治理事、上妻志郎理事は欠席）、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 3 名を選任し、これを承認した。

### I. 平成 24 年度第 6 回常務理事会議事録（案）の確認

原案通り、承認した。

### II. 業務担当常務理事報告

#### 1) 総 務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①山田貞一功労会員（長野）が昨年 10 月 1 日にご逝去された。（長野地方学会から 3 月 22 日報告受領）

②鳥越正名誉会員（山口）が 3 月 15 日にご逝去された。（山口地方学会から 3 月 28 日報告受領）

③石塚孝夫功労会員（栃木）が 3 月 16 日にご逝去された。（弔電・供花手配済み）

④林要功労会員（香川）が 3 月 16 日にご逝去された。（香川地方学会から 3 月 25 日報告受領）

(2) 予防接種法の一部改正における対象疾病名を「ヒトパピローマウイルス感染症」から正しい用語である「子宮頸がん」に修正する要望書を厚生労働大臣あてに、子宮頸がん征圧をめざす専門家会議、日本産婦人科医会、日本対がん協会と連名で提出した。〔資料：総務 1〕

小西郁生理事長「最終的には『ヒトパピローマウイルス感染症』で法律は成立したが、運用面では『子宮頸がん』という表現を入れるということになっている。ヒトパピローマウイルス感染症という表現は学術的に正しい面もある。」

(3) 体外受精—胚移植における黄体補充薬としてのプロゲステロン膣坐剤の早期承認に関する要望書を厚生労働大臣あてに提出した。〔資料：総務2〕

(4) 日本産婦人科医会から、本会と共同で、出産育児一時金増額の要望書を内閣官房副大臣あてに提出したい、との提案があった。〔資料：総務2-1〕

**水上尚典委員長**「以前に医会が行った実際に出産にかかる費用の調査では確か60万円台だったように記憶している。なぜ50万円なのかについての説明が必要ではないか。」

**吉村泰典委員長**「前回4万円上げてもらった時は産婦人科が大変な時期で、地方でお産ができなくなる状況を背景に社会のサポートもあった。今回どうして50万円なのか、についての根拠がはっきりしないなかでは協力は難しいように思う。」

**和氣徳夫監事**「前回はそうだったが、値上げと同時に自由診療を止める、という動きが出てくる。これへの対策も必要である。」

**佐川典正議長**「学会がこれを出す場合には、産婦人科のあるべき姿を提示してそのためには50万円であることが必要である、という説明ができないと国民に理解されないと思う。」

**落合和徳副理事長**「出産育児一時金に頼る構図であり、産婦人科のイメージにプラスには働かないのではないか。」

**小西郁生理事長**より、「もう少し議論を尽くしたうえで進めるべき、として学会としては参加しないことにしたい」との提案があった。その提案について特に異議はなく、全会一致で参加しないことが承認された。

(5) 本年2月に最高裁で産婦人科医の当直を時間外労働であると認める判決が出たことを受けて、「産婦人科勤務医の勤務条件改善のための提言」を本会ホームページに掲載するとともに、産婦人科を有する病院管理責任者あてに「産婦人科医に対する適正な処遇実施のお願い」を送付したい。〔資料：総務2-2〕

**平松祐司委員長**「これの送り先を教えてください。」

**小西郁生理事長**「各大学病院、周産期母子センター、専攻医研修指導施設としたい。」

(6) 日本専門医制評価・認定機構研修施設委員会に対して、同委員会で取りまとめている研修施設整備指針についての意見を提出した。〔資料：総務3-1、3-2、3-3〕

(7) 若手医師確保のためのワーキンググループ報告〔資料：総務4〕

**平松祐司委員長**「マッチングプログラム参加者アンケートでは産婦人科志望は5.3%であり、それに2010年の医師国家試験合格者数を掛けると421名となる。同年度の入会者数はそれより少なく、他科に逃げている人も多いようだ。」

(8) 平成25年度日本産科婦人科学会予定表について（確認）〔資料：総務4-1〕

(9) 平成24年度新入会員数について〔資料：総務4-2〕

(10) 日本医学会との間に、「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会に関する覚書

を締結したい。[資料：総務 4-3]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (11) 5月1日午後8時からのBSフジ「プライムニュース」への出演依頼を受領した。新型出生前診断や不妊治療をテーマに、厚生労働行政に携わる政治家も招いて2時間かけて議論を行う予定とのことである。[資料：総務 4-4]

本件は吉村泰典先生に出席いただくことについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (12) 医道審議会医師臨床部会における議論について

4月25日に開催される医師臨床部会において、本会に対して臨床研修制度のヒアリング依頼があり、小西郁生理事長が出席する。ヒアリングでは特に、研修診療科、研修期間に関する話を要請されている。[資料：総務 5-1、5-2、5-3、5-4、5-5]

**阪埜浩司幹事**「3月の医師臨床部会に出席した。外科学会、麻酔学会などがプレゼンを行い必修に戻すべきという主張を行ったが、部会の反応は厳しいものであった。初期臨床研修制度を先祖返りさせないという前提のもと、現行制度をどのように発展させるかがポイントで、必修化に戻せという学会もあるがこれを受け入れると2年という期間に入りきらないので難しいという雰囲気であった。おおよその考え方としては、卒前教育を合わせた5年括りで考え、診療科別ではなく基本理念に沿ってどういう研修項目が必要かを検討する、とのスタンスであり、産婦人科の現状を基にした主張は通りにくい状況である。そのため基本理念を達成するためには、卒後臨床研修のなかで女性全体を見る産婦人科研修は必要である、という主張を行うのがよいと思う。」

**小西郁生理事長**「初期研修の最初の1年間に女性医学、特に少子化のなかで若い女性の妊孕度の向上を図ることが必要であるということをおっしゃるのは大事だと思う。」

**吉川裕之理事**「グローバルスタンダードの考え方、また内科、外科でも妊娠判断ができることは患者の役に立つ、という論点も示す必要がある。」

**水上尚典理事**「欧米では妊娠、分娩は国民の健康を守るうえで大きなウェイトが置かれているようである。医師になるためには国民誰でも関係するお産についての正しい知識を持つことは当然であるというように主張するべきではないか。」

**木村正理事**「女性ヘルスケアが必要ななかで、産婦人科の果たす役割について主張して行くべきである。」

**和氣徳夫監事**「卒前卒後で臨床研修を行うとすると卒前の3年間で何を教えるのかを学会として考えないと、卒後2年間についての論理展開が難しくなる。」

**武谷雄二監事**「わが国での産婦人科の存在感は低下している。そのなかで必修化の名乗りを上げるのはかなり難しい。欧米ではファミリーフィジシャンには人気があり、そのなかで産婦人科は必須の存在になっている。本会が女性のかかりつけ医を作っていくことを主張しそれが社会に受け入れられるようであれば、必修化は必要という意見も出てくるのではないか。」

**吉村泰典委員長**「お産を見るということだけでは難しい。国もフランスのようなMy婦人科を通した女性のトータルヘルスケアを考えており、その観点で主張していかないと説得力を持たないと思う。」

**小西郁生理事長**「産婦人科の減少対策である重点コースについて、不要ではないかとの意見も出ており、そこでは産婦人科医師数の話は言っていく必要がある。」

**峯岸敬理事**「大学にとっては重点コースは全体の研修の外側で継続することが望ましい。また臨床研修の2年目はフリー選択にする前提の議論なのか、部会で確認してほしい。女性医学についての主張は賛成だが、施設面の問題など現実に研修が実施できるのかとの質問が出るように思う。」

小西郁生理事長「女性ヘルスケアに加えて子どもの出生・発達についての小児科との共同プログラムなども考えてみたい。さらに重点コースの継続についても主張したい。」

小西郁生理事長の示した方針につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(13) 第 67 回学術集会を担当するコンベンション会社の選定について

3月9日に委託会社候補3社のプレゼンテーションを実施し、株式会社コングレに委託することとなった。

(14) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①卵巣腫瘍取扱い規約第1部組織分類ならびにカラーアトラス(第2版)増刷依頼  
同書籍発刊元である金原出版(株)より1,000部増刷依頼があったのでこれを承認した。

(ハ) 周産期委員会 特になし

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン2012頒布状況について

4月3日現在、入金済6,049冊、校費支払のため後払希望 87冊。

(15) 事務局入口のセキュリティ工事について、富士ビジネス、コクヨマーケティング、セキュリティアデザインの3社に見積りを取った。そのうち最低価格を提示した富士ビジネスに工事を依頼することとしたい。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

[Ⅱ. 官庁関係]

(1) 内閣府

内閣府大臣官房公益法行政担当室より、母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法の施行に伴う対応についての協力依頼を受領した。[資料：総務6]

(2) 厚生労働省

①同省医薬食品局より、サリドマイド製剤及びレナリミド製剤の使用に当たっての安全管理手順の改訂についての注意喚起及び周知依頼を受領した。ホームページに掲載して会員へ周知した。

[資料：総務8]

②同省雇用均等・児童家庭局母子保健課は、地方自治体母子保健主管部局長及び関係団体理事長あてに「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査」の指針についての周知依頼を発信した。

[資料：総務9]

③同省雇用均等・児童家庭局母子保健課および健康局結核感染症課より、予防接種法改正に伴う母子保健法施行規則の一部改正と母子健康手帳の任意記載事項様式の改正についての周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して会員に周知した。[資料：総務9-1、9-2]

④同省健康局結核感染症課より、風しんに関する厚生労働省のホームページを更新したことの周知依頼があったので、本会ホームページに掲載した。

### 〔Ⅲ. 関連団体〕

#### (1) 日本学術会議

日本学術会議科学者委員会・学協会機能強化方策検討等分科会から、「新公益法人法への対応及び学協会の機能強化のための学術団体調査結果について」の報告を受領した。〔資料：総務 10〕

#### (2) 日本医学会

①日本医学会が平成 26 年度から一般法人化するにあたり、各分科会に費用分担を求めることになった。正式な請求は今秋となるが、本会負担は概算で 165 万円程度となる。〔資料：総務 11〕

②日本医学会法人化組織委員会委員選出の依頼を受領した。任期は平成 25 年 5 月から平成 27 年 3 月までで、可能であれば前任の先生にお願いしたいとのことである。〔資料：総務 11-2〕

**武谷雄二監事**「日本医学会の法人化について、日本医師会はあまり歓迎していないようである。産婦人科領域でも学会と医会の向く方向が違わないように医会とも相談して基本的スタンスを固めた方がよいのではないか。」

**岡井崇副理事長**「日本医師会は個人単位だが日本医学会は学会が加入することになる。」

**武谷雄二監事**「日本医師会には過去からの実績もあるが、日本医学会は学会のアライアンスの面があり、各学会が積極的に支えていかないと立ち行かないのではないか。」

**岩下光利理事**「その通りであり、医師会との関係、各分科会との関係を探りつつ法人化を進めている。」

**小西郁生理事長**「まだ不透明なところはあるが、最近は遺伝子問題など共通のテーマも出ており、必要な場面では本会も主体的に関わっていききたい。なお法人化組織委員会委員には岩下光利先生にお願いしたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (3) 日本集中治療医学会

日本集中治療医学会より、毎年 9 月 13 日に制定されている世界敗血症デーについて、本会に参加協力依頼があった。具体的な依頼は別途となるが、同学会が企画する講演会や教育的企画についても協力を求めている。〔資料：総務 11-1〕

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (4) 子宮頸がん征圧をめざす専門家会議

①同会議では「子宮頸がん予防ワクチン適正接種の促進に関する考え方」を、本会、日本産婦人科医会、日本小児科学会、日本婦人科腫瘍学会など 8 団体で共同メッセージとして社会に発信していきたいとして、本会に対して賛同を求めてきたのでこれを応諾した。〔資料：総務 12〕

②子宮頸がんワクチン接種の副作用被害者が連絡会を設立した。〔資料：総務 12-1〕

**岡井崇副理事長**「この副作用については実態調査など学会としての対応が必要ではないか。」

**小西郁生理事長**「アジュバントの影響があることは知られており、痛みで失神する可能性があることは分かっていたが、それが後遺症的な形で残る方がでてきたことが今回の問題であり、ワクチン接種との関連についてはまだ何とも言えない状況である。子宮頸がん征圧のためワクチン接種を進めるといふことには変更はないが、学会としてもきちんと状況を把握していきたい。」

③同会議より自治体がん検診担当者対象の「厚労省子宮頸がん HPV 併用検診事業推進・サポートセミナー」（2013 年 5 月 9、14～17、23 日、全国 6 都市）の後援名義使用依頼を受領した。経済

的負担はなく、これを応諾した。

(5) 日本がん治療認定医機構

同機構より、5月17日開催の2013年度関連学会連絡委員会の案内を受領した。[資料：総務13]  
**小西郁生理事長**「日本婦人科腫瘍学会と相談して両会の兼務出席ということで調整したい。」  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 予防接種推進専門協議会

同協議会が日本医師会と共同で実施し本会も協力した「7ワクチンの定期接種化を求める署名活動」で集めた署名を、厚生労働大臣あての要望書とともに提出したとの報告を受けた。

[資料：総務13-1]

[IV. その他]

(1) 日本学術振興会より6月14日期限内で、第4回日本学術振興会育志賞の推薦依頼を受領した。

[資料：総務14]

(2) 黒住医学研究振興財団より5月31日期限内で、研究助成事業募集及び小島三郎記念文化賞の推薦依頼を受領した。[資料：総務15]

(3) 東京顕微鏡院より6月30日期限内で、遠山椿吉記念健康予防医療賞の推薦依頼を受領した。

[資料：総務16]

(4) 東京がん化学療法研究会より第14回臨床腫瘍夏期セミナー(2013年7月18、19日、日経ホール)の後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾したい。

(5) 株式会社電通より、女性のための漢方セミナー(2013年5月16日：広島・アステールホール、5月30日：新潟県民会館ホール、8月1日：札幌市民ホール、9月12日：名古屋・日本特殊陶芸市民会館、10月2日：アクロス福岡シンフォニーホール、10月23日：仙台・東京エレクトロンホール宮城、11月14日：大阪・オリックス劇場、2014年2月22日：東京・人見記念講堂)の後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾した。

(6) 日本母乳の会より、第22回母乳育児シンポジウム(2013年8月3、4日、東京・ガーデンシティ品川)の後援名義使用依頼を受領した。経済的負担はなく、これを応諾した。

(7) 慶應義塾大学大学院の「先端医療技術に関する法制度の学際的研究体制の構築支援」プロジェクト事務局より、本会ホームページに掲載されている「倫理的に注意すべき事項に関する見解」の大半に当たる13見解について、同プロジェクトデータベースへの転載許可依頼を受領した。

[資料：総務17]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 中外製薬株式会社より本会から推薦した5名の評価委員による「抗インフルエンザウイルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査」症例評価検討会の開催依頼を受領した。各評価委員からは検討会開催了承の回答をいただいている。[資料：総務18]

## 2) 会 計 (岡井崇副理事長) 特になし

## 3) 学 術 (峯岸敬理事)

### (1) 学術委員会

#### (イ) 会議開催

①第65回学術講演会 IS Award 選考委員会を5月10日に開催する予定である。

### (2) プログラム委員会関連

#### (イ) 第65回学術講演会プログラム委員会

#### (ロ) 第66回学術講演会プログラム委員会

#### (ハ) 第67回学術講演会プログラム委員会

## 4) 編 集 (上妻志郎理事欠席につき岡井崇副理事長)

### (1) 会議開催

平成25年度第1回和文誌編集会議ならびに第1回 JOGR 全体編集会議を4月12日に開催した。

### (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況：2013年投稿分 (3月末日現在)

投稿数274編 (うち Accept 7編、Reject 89編、Withdrawn/Unsubmitted 42編、Under Revision 17編、Under Review 119編、Pending 0編、Expired 0編)

### (3) 第65回学術講演会主演題講演要旨執筆依頼

第65回日本産科婦人科学会学術講演会の主演題演者に対して、講演要旨の執筆依頼を発送した(3月28日付)。脱稿日は5月末日を予定している。

### (4) JOGR 増頁について

①昨年未までで掲載待ちの論文が約380頁になることが判明したので、契約頁外に300頁を超過した場合の1,868,000円の支出増をお認めいただきたい。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

②第65回日本産科婦人科学会学術講演会時の Presidential Symposium dedicated to Professor Seiichiro Fujimoto, Clinical Trials for Lymphadenectomy in Endometrial Cancer in the Post-ASTEC/Post-SEPAL Era の演者6名の講演要旨を JOGR に掲載の予定 (約50頁) であるが、掲

載が来年になる見込みであるため来年発行予定頁数に含め、次期編集において契約ならびに予算立てについて協議する予定である。

## 5) 渉外 (木村正理事)

### (1) 会議開催

第 65 回日産婦学会学術講演会会期中に海外ゲストとのミーティングを開催予定である。

[資料：渉外 1]

### [FIGO 関係]

(1) 2月2日、3日にロンドンにて FIGO Officers meeting が開催された。[資料：渉外 2]

**落合和徳副理事長**「本会の FIGO の票数はどうなっているのか。」

**木村正理事**「今年増やして現時点では上限の5票である。今回の変更提案は2018年からの適用である。」

### [AFOG 関係]

(1) ACOG 2013 (10月20～23日、於：バンコク) 開会式にて武谷雄二監事に Fellowship が授与されるにあたり、木村正渉外担当常務理事が citation を担当する予定である。

(2) 韓国からの Fellow である Professor Byoung Choo Bai ご逝去にあたり、御子息へ本会より弔文を送った。

### [ACOG 関係]

(1) The American College of Obstetricians and Gynecologists Neonatal Encephalopathy Task Force Report "Neonatal Encephalopathy and Neurologic Outcome 2nd Edition" の endorsement について [資料：渉外 3]

**木村正理事**「期限が迫っているので承認はするが、本会周産期委員会を中心に取りまとめたうえ、後ほど意見を言いたい、ということで対応したい。」

**落合和徳副理事長**「本会は 1st Edition はすでに承認しているので、引き続き承認ということによいと思う。」

**岡井崇副理事長**「前回も承認したあと、意見を述べた経緯がある。同様の対応によいのではないか。」

**木村正理事**「公開の際には、日本の実情と違うところがある、という注釈をつける前提で承認するとした方がよいと思う。」

### [KSOG 関係]

(1) 小西郁生理事長が KSOG 名誉会員に推挙された。第 99 回 KSOG 学術講演会 (2013 年 9 月 26～28 日) にて表彰される予定である。

**平松祐司委員長**「TAOG と KSOG の学術講演会の際には花を手配するようお願いしたい。」

## 6) 社 保 (吉川裕之理事)

### (1) 会議開催

①4月12日に第6回婦人科内視鏡悪性腫瘍手術に関する関連団体協議会を開催した。

②4月12日に本年度第1回社保委員会を開催の予定である。

(2) 平成26年度診療報酬改定提案について、厚生労働省保険局医療課より医療技術評価提案書および記載要領等が発信された。内保連、外保連を経由し、最終的な厚生労働省への提出期限は6月21日である。

(3) 先進医療として腹腔鏡下子宮体がん根治手術を実施している22施設における手術実施件数調査結果について [資料：社保1]

## 7) 専門医制度 (吉川史隆理事)

### (1) 会議開催

5月18日に平成25年度第1回中央専門医制度委員会を開催する予定である。

### (2) 日本専門医制評価・認定機構

①4月24日に行われる「基本領域18学会との連絡会議(仮称)」の案内を受領した。小西郁生理事長が出席予定である。 [資料：専門医1]

**佐川典正議長**「第三者機関が専門医を認定するとなっているが、学会は実務をやって何の権限もない、ということにならないようにしてほしい。」

**小西郁生理事長**「各学会がどの程度責任をもって決めるのか、第三者機関や厚生労働省は単に認定するだけなのか、のせめぎ合いの大事な時期に来ている。」

**佐川典正議長**「認定だけでなく生涯教育を担うのは学会なのだから、学会と一体となった仕組みでないと機能しないということをはっきり主張してほしい。」

**小西郁生理事長**「了解した。」

②5月21日に行われる「平成25年度第1回社員総会」の案内を受領した。

## 8) 倫理委員会 (落合和徳委員長)

### (1) 本会の見解に基づく諸登録(平成25年3月31日)

①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：47研究

②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：575施設

③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：575施設

④顕微授精に関する登録：517施設

⑤非配偶者間人工授精に関する登録：15施設

### (2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

3月29日現在申請325例 [承認267例、非承認4例、審査対象外19例、取り下げ2例、照会18例、審査中15例] (承認267例のうち8例は条件付)

### (3) 会議開催

①第3回倫理委員会を2月19日に開催した。

②平成25年度第1回着床前診断に関する審査小委員会を4月4日に開催した。

- ③平成 25 年度第 1 回倫理委員会を 4 月 23 日に開催する予定である。
- ④平成 25 年度第 2 回「着床前診断に関する審査小委員会」を 5 月 2 日に開催する予定である。
- ⑤「ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する見解／考え方ワーキンググループ委員会」を 5 月 14 日に開催する予定である。

- (4) 日本医学会の第 1 回認定・登録部会が 3 月 26 日に開催され、申請のあった 15 施設を認可した。  
 ※次回は、申請状況を踏まえながら 4 月下旬～5 月上旬頃に集合会議を開催する予定である。  
 [資料：倫理 1]

## 9) 教育 (八重樫伸生理事)

### (1) 会議開催

- ①4 月 5 日に若手育成委員会と合同で「産婦人科若手医師の会に関するワーキンググループ」を開催した。

**八重樫伸生理事**「若手医師の会についてどう進めるかについては様々な意見が出た。地方連合や地方学会ベースで進めてそれを全国的に束ねる方式なども提案されたが、多少時間をかけて議論を詰めていきたい。」

- ②4 月 5 日に平成 25 年度専門医認定筆記試験問題作成委員会 (第 2 回) を開催した。
- ③4 月 12 日に平成 25 年度海外派遣予定者の打合会を開催する予定である。
- ④4 月 12 日に第 65 回学術講演会時若手医師企画ならびに Junior Fellow の参加者の合同委員会を開催する予定である。なお、この会議には平成 25 年度海外派遣予定者にも参加してもらい、第 66 回学術講演会時の Junior Fellow への協力を依頼したい。

### (2) 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部奨学金について

- ①平成 24 年度支給開始者に対して、25 年度の継続受給の意思確認を行った。24 名中 1 名が継続を希望しなかった。その理由は無事に卒業でき、国家試験も合格して大学病院での研修が決定したからということであった。
- ②平成 25 年度支給開始者に対し送金先の確認を行った。
- ③赤枝医学研究財団に必要書類を送付した。
- ④平成 23 年度ならびに 24 年度受給者に対し、レポートの提出を依頼した (3 月 29 日付)。
- ⑤教育委員会において、募集要項の「各県 1 名」という表記について各県により大学数が異なるため「各大学 1 名以内」としたいということになった。西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部に変更の可否を図りたい。[資料：教育 1]

### (3) 海外派遣について

(株) 明治からの寄附金は平成 24 年度で終了したが、寄附金残があるため今後 4～5 年の派遣は実施できる見込みである。海外派遣についての今後の予定ならびに内規をまとめた [資料：教育 2]。

### (4) 学術講演会時の「若手医師企画」について

若手医師企画の費用対効果など委員・役員の先生方からご意見をいただいたので教育委員会で検討したが、横の連繋など所期の目的を達成したと思われるので、第 65 回学術講演会で行われる第 5 回若手医師企画をもって一旦終了する。  
 第 66 回学術講演会時には学術集会長のご協力を得て、今までの若手医師企画委員・海外派遣経験者などの集合委員会を企画する予定である。

- (5) 用語集・用語解説集 (書籍版ならびに電子版 [タブレット端末専用]) / 産婦人科研修の必修知識 2013 (電子版 [タブレット端末専用]) 発刊について [資料：教育 3]

- ①用語集・用語解説集書籍版：8,000円（税込み・送料学会負担／5月中旬発刊予定）  
 用語集・用語解説集電子版（用語解説集拡張機能付き）：初期5,200円、平成26年1月1日以降6,100円
- ②産婦人科研修の必修知識2013電子版  
 産婦人科研修の必修知識2011書籍版を大幅に見直した電子版を6月1日を目処に発刊予定である。  
 産婦人科研修の必修知識2011書籍版購入者（学会に書籍版奥付に掲載の学会シンボルマーク（クーポン）を送付していただき、IDパスワードを取得された方）：10,500円（用語集・用語解説集電子版（用語解説集拡張機能付き）／  
 産婦人科研修の必修知識2013電子版：8,200円  
 ＊この金額設定はApple社の規程に沿ったものである。
- ③電子書籍を実際に試していただくために、第65回学術講演会会場においてiPad100台に必修知識2013（用語解説集拡張機能付き）を搭載し、無料貸し出しを行う。なお、このiPadには学術講演会のプログラム・抄録も収録されている。
- (6)「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について  
 4月3日現在、入金済6,292冊、校費支払のため後払希望68冊。
- (7)「若手のための産婦人科プラクティス」頒布状況について  
 4月3日現在、入金済1,331冊、校費支払のため後払希望152冊。

#### 10) 地方連絡委員会（落合和徳副理事長）

##### (1) 会議開催

地方連絡委員会を5月11日（土）11：30～13：00に開催予定である。なお開催場所は、ロイトン札幌20階パールホールABとなった。

### III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

#### 1) 広報委員会（嘉村敏治委員長欠席につき、津田尚武主務幹事）

##### (1) 会議開催 なし

##### (2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

##### (3) ホームページについて

##### (4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報3]

##### (5) Newsletter12号に掲載の各記事をホームページ Reason for your choice のコーナーに掲載した。

##### (6) 製薬会社等6社へホームページバナー広告趣意書を渡しバナー掲載検討を依頼した。

#### 2) 未来ビジョン委員会（吉村泰典委員長） 特になし

#### 3) 震災対策・復興委員会（岡井崇委員長）

##### (1) 福島県への医師派遣支援について [資料：震災対策1]

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

##### (1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

###### ① 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について

4月3日現在、入金済14,309冊、後払希望37冊。

###### ② 産婦人科診療ガイドライン産科編 2011の残部が僅少となったため、800部の増刷を決定した。

費用は約100万円を見込んでいる。

##### (2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長)

###### ① 会議開催

4月4日に第2回評価委員会を開催した。

##### (3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

###### ① 「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について

4月3日現在、入金済11,221冊、後払希望107冊。

###### ② 4月14日(日)に第1回コンセンサスマーケティングを大阪で開催する。

##### (4) 婦人科外来編評価委員会 (峯岸 敬委員長)

吉川裕之学会側調整役「今回はコンセンサスマーケティングをそれぞれ4回ずつ行うことになった。また評価委員会・作成委員会の連絡会を開き、直接議論してもらった。」

#### 5) コンプライアンス委員会 (平松祐司委員長)

##### (1) 日本医学会利益相反委員会から、「日本医学会分科会におけるCOIマネジメントの現況とその課題」および「日本製薬工業協会の会員会社へのアンケート調査について」の委員会報告を受領した。

[資料:コンプライアンス1、2]

#### 6) 医療改革委員会 (海野信也委員長) 特になし

#### 7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会 (竹下俊行委員長)

##### (1) 会議開催

5月10日、第65回日本産科婦人科学会学術講演会 男女共同参画・女性の健康週間委員会企画シンポジウム開催の前日に、演者を交え打ち合わせ会を開催の予定である。

##### (2) 地方学会担当市民公開講座について [資料:男女共同1]

##### (3) 女性の健康週間2013活動報告について [資料:男女共同2]

##### (4) 第65回日本産科婦人科学会学術講演会にて託児所に関するアンケートを実施の予定である。

#### 8) 若手育成委員会 (齋藤滋委員長欠席につき、金内優典主務幹事)

##### (1) 産婦人科スプリング・フォーラムについて

① 第3回産婦人科スプリング・フォーラムの様子をDVDにて作成中であり、完成次第、各大学に送付予定である。また、第65回学術講演会時にDVDを会場にて放映予定となっている。

② 第4回産婦人科スプリング・フォーラムについては、京都以外での開催も考慮したが、経費面・

交通の便、会場の使い勝手などから第3回までと同様に京都平安ホテルで開催することを予定している。

(2) 産婦人科サマースクールについて [資料：若手育成1]

①第7回産婦人科サマースクールは8月3日(土)4日(日)の2日間にわたり、長野・美ヶ原温泉ホテル翔峰を貸し切りで行う予定である。

②おおまかなタイムスケジュールは資料の通りであり、アドバンスコースでは3分野の座学・実習に加え、顕微授精(山梨大学・平田修司教授他)・ロボット手術体験コーナー(東京医科歯科大学・井坂恵一教授他)などを行いたく交渉を進めている。

(3) 産婦人科若手医師の会について

教育委員会と合同で4月5日にワーキンググループを開催した。

9) 臨床研究審査委員会(水沼英樹委員長) 特になし

10) 医療安全推進委員会(岡井崇委員長)

(1)日本医療安全調査機構より「診療行為に関連した調査分析モデル事業」に対する統括責任者等の推薦依頼を受領した。[資料:医療安全1]

小西郁生理事長「引き続き岡井崇先生にお願いしたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

木村正理事「大阪でもこのモデル事業を行っているが、救急救命センターの理解が不十分で、妊婦の急死の場合は直に警察となる。日本救急医学会と調整が必要と思うのでご協力をお願いしたい。」

(2)日本医療安全調査機構より評価委員候補者リスト作成依頼を受領した。

11) 公益事業推進委員会(石原理委員長)

(1)株式会社ツムラから、本会若手医師育成業務などへの一般寄附金の申し入れがあった。年間200万円、期間は特に定めず長期ということである。委員会でサマースクールを含めて、寄附金を利用する企画を検討中である。

12) 情報管理委員会(竹田省委員長)

(1)4月25日に第3回情報管理委員会を開催予定である。臨床研究審査委員会の水沼英樹委員長、多賀谷光主務幹事にも出席いただき、臨床研究審査委員会との業務分担を確定させる。

13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会(井坂恵一委員長)

(1)4月12日、第1回委員会を開催した。

阪埜浩司幹事「婦人科の施設基準、術者基準などを早急に作成し公表するようにしたい。」

III. その他 特になし

以上